



2025年2月14日

各位

会社名 株式会社アプリックス
代表者名 代表取締役社長 倉林 聡子
(コード: 3727、東証グロース)
問合せ先 経営管理部 担当部長 岩井 俊輔
(TEL. 050-3786-1715)

通期連結業績予想と実績値の差異及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2024年5月13日付適時開示「2024年12月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しました2024年12月期の連結業績予想と、本日2025年2月14日に開示しました2024年12月期の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、通期の個別業績予想につきまして、前期実績と当期実績との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

i. 通期連結予想と実績値との差異

1. 2024年12月期通期連結予想と実績値との差異(2024年1月1日~2024年12月31日)

	売上収益	事業利益	営業利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株あたり当期利益
前回発表予想(A)	百万円 4,235	百万円 219	—	—	—
実績値(B)	3,707	227	221	157	7.18
増減額(B)-(A)	△527	8	—	—	—
増減率(%)	△12.4	3.6	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2023年12月期)	3,761	260	321	336	15.17

※1. 2024年12月期の通期予想については、売上収益と事業利益のみ発表しております。

2. 差異の理由

ストックビジネス事業におけるMVNE/MVNOサービスの主要取引先において、ビジネスモデルの転換に伴う新規獲得数の減少や過去の保有回線における当該取引先の不適切な取り扱いによる回線の解約件数が増加したこと、またシステム開発事業にて主力ビジネスとして取り組んできた受託開発について、フロービジネスからリカーリングビジネスへ転換を図るべく受託内容の見直しを行っており案件数が一時的に減少したこと、これらを主な要因として、売上収益については前回発表予想値と前期実績値に対していずれも減少という結果となったほか、営業利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益についても前期実績値より減少しました。また、事業利益については、売上収益の減少に伴いMVNE/MVNOサービスに係る回線原価等の売上連動費用についても減少したこと、またその他仕入原価の見直し等の既存取引における収益性改善に取り組んだ結果、前期実績値に対して減少したものの前回発表予想値と比較して増加という結果となりました。

ii. 個別業績の前期実績との差異について

1. 個別業績の前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益 (※1)	当期純利益 (※1)	一株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (2023年12月期)	百万円 645	百万円 △92	百万円 308	百万円 452	円 銭 20.42
当期実績 (B) (2024年12月期)	586	△148	△159	△93	△4.28
増減額 (B-A)	△59	△55	△467	△546	—
増減率 (%)	△9.2	—	—	—	—

※1. 経常利益及び当期純利益において前期実績との差異が他項目と比較して多大となった理由は、2023年12月期において連結子会社より受取配当金 400 百万円を受領し、営業外収益に計上したことによるものです。

2. 差異の理由

売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益が前期実績値より減少した理由は、上記「i. 通期連結業績予想の修正 (2) 修正の理由 (連結売上収益)」に記載のとおり、システム開発事業にて主力ビジネスとして取り組んできた受託開発について、フロービジネスからリカーリングビジネスへ転換を図るべく受託内容の見直しを行っており案件数が一時的に減少したこと等によるものです。

以上